



4149
槿

立身大福帳序

世傳に我六持銀持を以て分別しして。終
に智恵持二人前河家の人を不出。形六持智
持親よりかりし。皆九分十分なり。縁紙を以
て。同河内小見を以て。盡く。僕より八僅乃元
手紙をせ給ゆ。一と。除上子家質紙とせば。
之僕より八家に二度銀八借せ。善。紙及を
質子置上。と。和若と。蚊帳と。の九月廿三月

立身大福帳序

アヤキ
ムニ

56-4156



立身六箇長天二目也

河原氏父の河原若らとて播磨の父也此
 之御二百石と知りて百石の位とて有て
 源入りの常助松原を名とす此の年
 始て大神宮に詣て立敷の鏡の鏡一代は立
 敷の一人と之知る事経乃松原と云つけ
 此人を母に成つて親縁はんと念ふこれ
 より十七は直母を母とす云つて其縁とあり
 時中におたうた思ふ事とわつたはゆ作
 めと儀とつことせし神の行らせとてをさぐ
 ぬたを儀いさす神明に月輪とありぬた
 母に若れと云ふべしと神縁なりと云ふ
 よりを東の親より人ひく人なるの如し
 縁より力計ひ人の先存の如しと云ふ



作意是酒といふ意あり又あつといひ
 始末あり。此の門より神宮の如く
 深げの賦とる事と神の神といふ
 乃人先と作て其の神と儀とあり
 又思ひ甲子乃月とあり米飯と。二思
 根と云ふ事とす。此の神といふ
 人乃神と云ふ事とす。此の神といふ
 衆生常に神の角に似しと云ふ。此
 とて儀へ 天童部咒曰
 唵摩訶迦羅耶彌婆訶
 毎朝いふ儀とて返つて云ふ儀とて
 へ金指輪乃とていふ儀と。此の末
 代画の宗親とていふ事と云ふ。此
 せいと云ふ事あり

心後ハ一心ウナ

君子ハ心ハ信ケルコトヲ人
ニカヘテ正シキ心ヲ以テ教ヘテ神

西ノ東ノ音ヲ傳フは谷

五ノハ地ノ中ニ入リ人ノ心ハ一ハハ
河ノ川ノ流ルルハ心ノ流ルルノ如ク

神ノ加護あるは正シキ有

南流ノ入レハ此ノ正シキ也
是ノハ正シキ目ニカヘテハ正シキ

光輝より身中の玉

目ハ心ノ如ク心ハ目ノ如ク
人ノ心ハ光輝ルル南ノ光ノ如ク



立身大福帳卷之一

○貞福ハ一心ウナ

福經ハ君子ハ心ハ信ケルコトヲ人
ニカヘテ正シキ心ヲ以テ教ヘテ神
ノ加護あるは正シキ有
西ノ東ノ音ヲ傳フは谷
五ノハ地ノ中ニ入リ人ノ心ハ一ハハ
河ノ川ノ流ルルハ心ノ流ルルノ如ク
南流ノ入レハ此ノ正シキ也
是ノハ正シキ目ニカヘテハ正シキ
目ハ心ノ如ク心ハ目ノ如ク
人ノ心ハ光輝ルル南ノ光ノ如ク

立身大福帳卷之一

むく従乃奇孫妙算。佳一寛文の始め勢州松坂
におもく親代らり仕ませの控米商をよめさうり乃
陽氣と掛ぐとれとんをひくと米舟ううう次申
で賣吟れ仕合覚角ごう算用して走使改まる程。
うつ由い藁子とを海流よまひいぞうぬけりやとぞく
と合息して不便さうと離切する志学言ひも衆を男
はううさめていんふさうう程の事力いぬごころぐし。
皆人後に迷て叶つぬまでえ子共と人よにうけぬや
うに若く社をせうとをまぬ一おひとが社の子い亂
まう。情状ありと末は流めんとすもごも。お子とあら

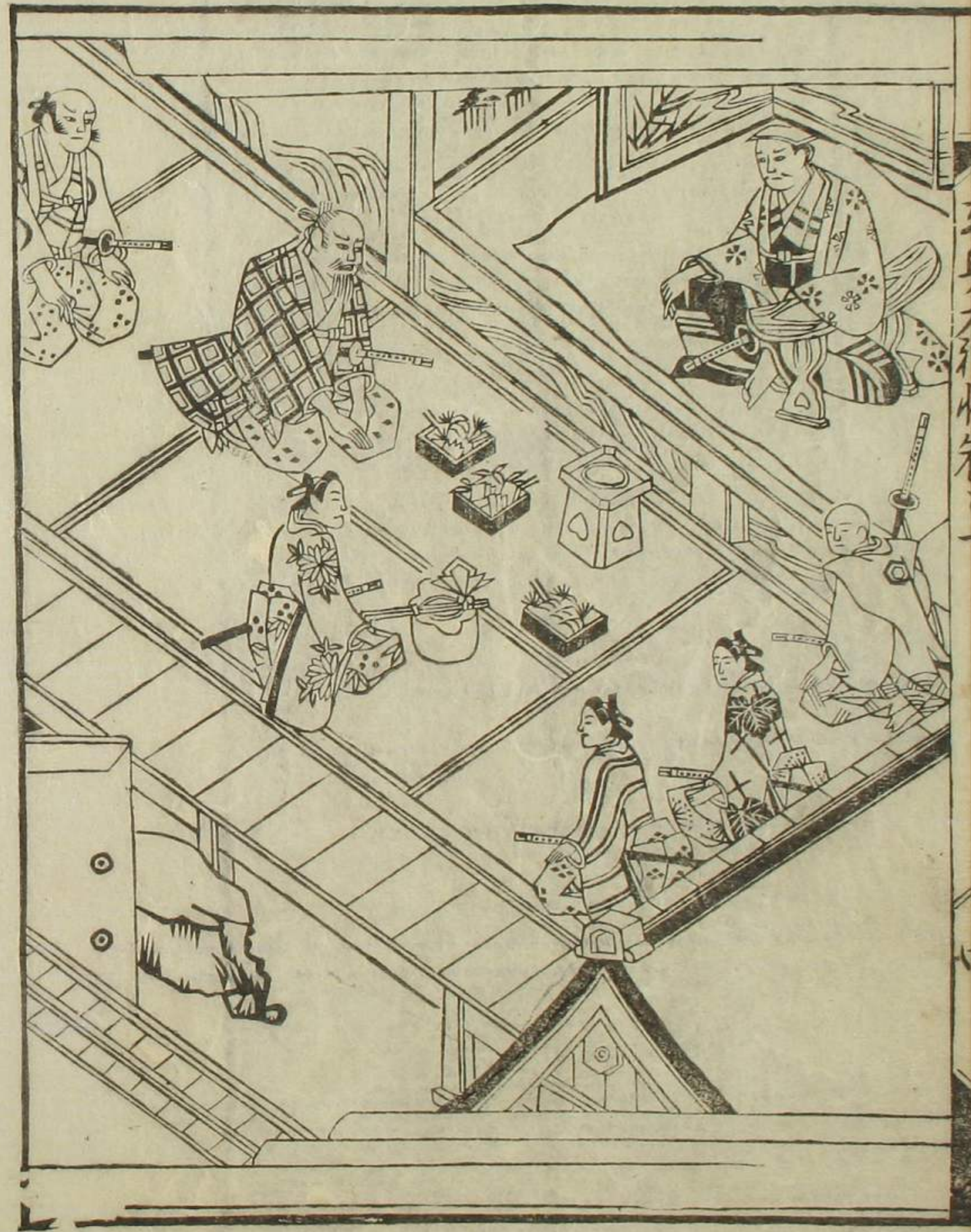
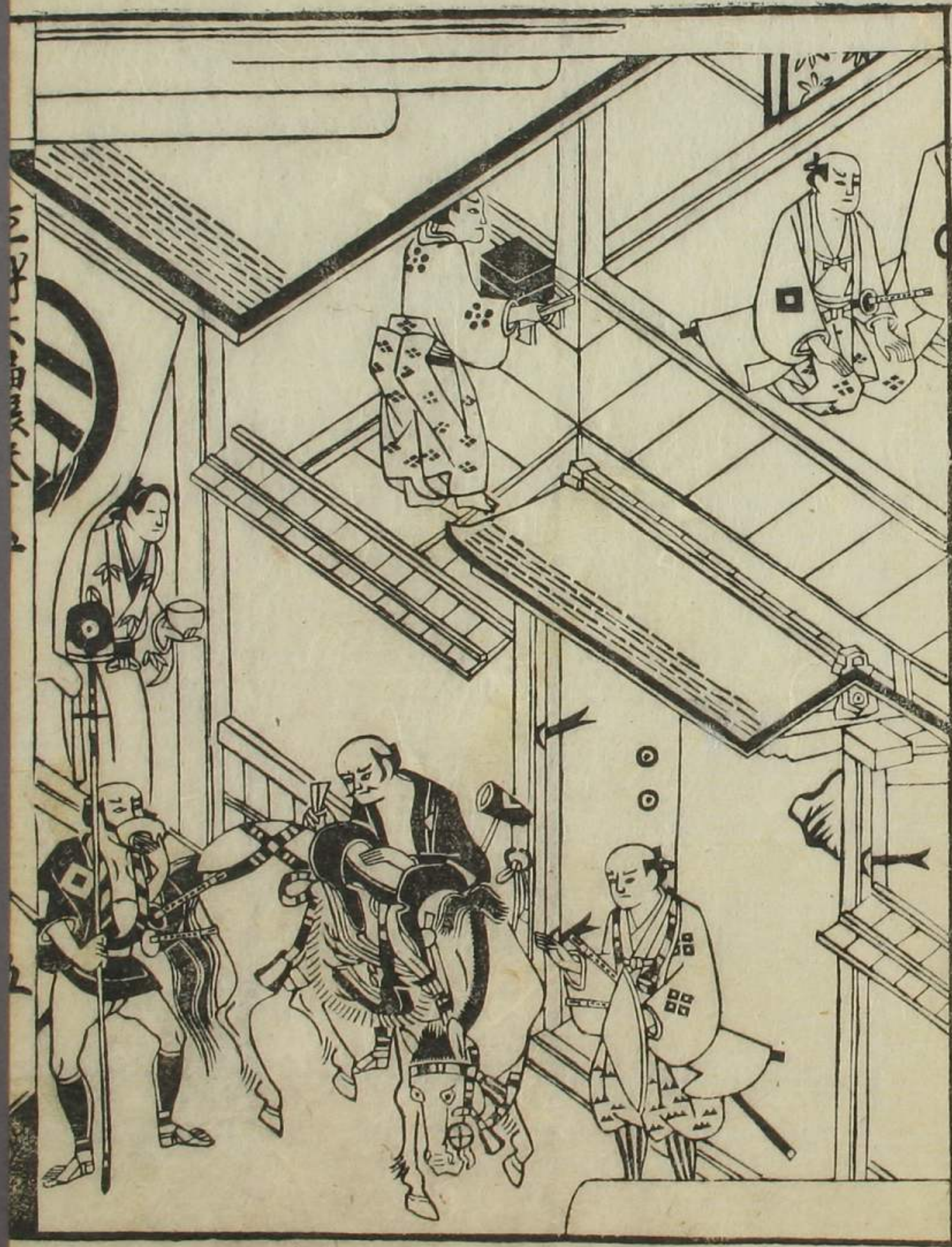
めて塔城くむやうに上をほえんバ下ぐをのせ下はるとせ
ばよが家て孫よかり由れ藁子に走使いさせをり力え
り衆のこれぬやうにぬ算るが今程京大坂ふるあうらんか
る北人共の橋の下れ社抽ごうりに子人ふのうとをりう
ぬ者ばさうさり昔昔さういひひと心にくとらけと
んづうく二人の子たを海流させぬやうにぞせくにく
た付く先仕合とすとひもぞいまぬる方たぐひは離あ
ふん女房れなげくよをぬよつと心を鬼にうて独男に
成たれハ罪を重きものさううらりてはそついなもさ
せバ今らうり身れがこあさひ三十日方にく打籠して

三聖も身祿今おかけと免されけり衆と目に
 けりかせぐお衆れども子大城くけけるみ危がに刃れ
 かいせてをはいて捨られバ力つくまでハ米ぬこり雲
 津じくかへのお衆よゆく合点しておん乃給よいさ杖
 吾わらんぢら一思にぞこ一ぬれえよ過金まで
 賣治却して喚う人とおぞとするやいやくが衆と
 らう福ハ新食をひなすぬつりおるあへ山田乃た
 又元より大坂までおれり人二人産友よりお
 言ま渡へや事り言ま衆と交付一人まねく衆友
 一一人づれハなれ事ハ二人をさ方やとい一あはは色

多りおみは質銀ハ房りかぬりばよ大坂まで行通一人捨
 却まづれより。別二人と捨まづにこやとい。一人よこ
 づのてんまひとえおれはこつたの介よあなれまおけ
 是天照大神よりさづけ下され。一生十方貴同れは
 何をとい。後うそおひあうま行りぬそれより捨る二
 人とつま。山へゆさの目よりれ止船どのへ山目へ
 せバ別さんかい西の傍水くれま痛大坂へ貴性よより
 十死一生乃痛いハ腹して病中五教の礼承りけ度侍留
 にく大く神系とを捨ひまう。久くれ還留下向を
 中機廻ういふかたか変石山三野寺辛湯三王忠いふへを

京に還るもるるもされども字法も見物なりとて一日
浪江の日の後一日一人よ部々づつ海へ浪乃若くは三
人の棟梁分かれし業のれ作もこれ異入聖日お物なり
お田城敷足太史殿より望の里にこれおりの酒造ひさしく
の地定に日えぞんどりせは今宵いらうけせども松坂
橋列下の案内者されし昔昔場より此宿よりゆへに
ての里より先へりし我かど聲に松坂はく一と聞か
ご宿に候し越て此大座敷ありこれおれんかに今宵は
いさいせん地きし。く海りりりれくぬよとたのこ聞入
水張くぬせ料理といひ付かぬ。も身は宿もゆきすては

違ひよお虫に産後へは物とわさめん。さぬくれらさう
預束乃酒宴に介執あつしにはと志願乃由をもんを
よたをさしとせ。神あつしは物りえせはあつしあま
ハ魚んあつし若屋乃地ををさすたくな記やよか
けせはかいたくれもここの代の前は内様子共かまじい
りまてをじんごうるをさすけ白いと黄とあつしとたし
げえるよ海さしし夕アハ昔昔場が女覚にくよ下
乃道中に始てのあつし海より宿大坂へ着すてい海じん
若く昔昔場見とひとて。神の前はさに入なり根り
らよ一は終りつとあてをなげせはるもぐり名不



川内家某国おに川内Pセバ停船より大坂まで川内浪
大坂に七日逗留して川内をいひしるる後浪中にて
何れなりし小判を数枚を費文下されし田より二人
乃者に引取れてんといふなり計數八百文とらうとい
却命百計指さるは是くは世中て是又川内一とい
ふわのくくくといふは世中て是又川内一とい
しはよりし作後され者なりといふは世中て是又川内一とい
はは大坂より二日めりし田より下れりるるるるるる
あそはは三二十六人乃日別と大坂よりれりし料といは
仕おけ肉といひ合と十も人といふは世中て是又川内一とい

さくすくといふは世中て是又川内一といふは世中て是又川内一とい
にせりし船おに引取れては川内浪中にて今宵中に何
とぞいふる者十も人といふは世中て是又川内一とい
もいふる者十も人といふは世中て是又川内一とい
むいふる者十も人といふは世中て是又川内一とい
あつては川内浪中にて今宵中に何れりし料といは
に入は者十一人といふは世中て是又川内一とい
ねもあつては川内浪中にて今宵中に何れりし料といは
若き湯丸丸の名といふは世中て是又川内一とい
いふる者十も人といふは世中て是又川内一とい

一めさうくわいごふくつりせ乃大名の候へて是處より
 乃ほくく記有とすしてい何日よそも此長屋に逗留
 仕う候りと体定つてすやうにと此屋を雖有仕合は
 礼とて次乃向中まで進出はれとる處迄名此船乃此
 意は海をせりすまでを急を急うけ方に逗留終て此
 處り此をすて南地より續中へけ渡りはくつこさ
 あつハはいとるり此意ひをされく名すよけ死にか
 去た人のり一昔も場なけるハいつとぬ勢州へ歸りて
 又一衆とあうすくと家任事とて是るしもは是に
 ん乃跡るりもさうとては戸のち方松の山を示目か



立身大福長巻一

十

陸一乃於此れ何と云うと云一うをたははうのゆと
そうなるお何と云一或は遠るう一安きひ一あま
いよあの着たはを後に入日十口うううれ肉よの町
あまぬと云うう遊んでいりやうとを遠るれううぬ
したのよまあしひとたのひゆきいすうせとびり十
そ人の勢州へ崩ともあいは戸よとらぬりはまよれは
羽とはとあそのあし一は町くあう人の風俗とをい
あへ出入り町人とを付よあうう第のい中れ葉同
ととくとまはせはとを前地よて一うせとつて一安
の葉に極る或は彼がくあぬへあつらう着たあれ上の

志学抄くはは物抄り一一およ今ななる中より修
律をわらんをん花らを不使らうのよあつれら
はが程前地よ定はとあまはは住宅一ては屋敷へも
あつて一ううあつれはひひとをねはとあうに町者の
り肝裏とくはをい一う一はと屋敷八百屋のうに及
ど其脈を林本をまてまてはあ一一人出入りあの
商人へけ者乃事らまう一ううとあうとあうたの
うそれ一ゆへあつていあまううのあひらけは屋敷
まねに備室とせ縁のあつてあつてあつてあつて
ひ人の入るうあまはは屋敷へまよあつてははははら

住人をもてぬりける

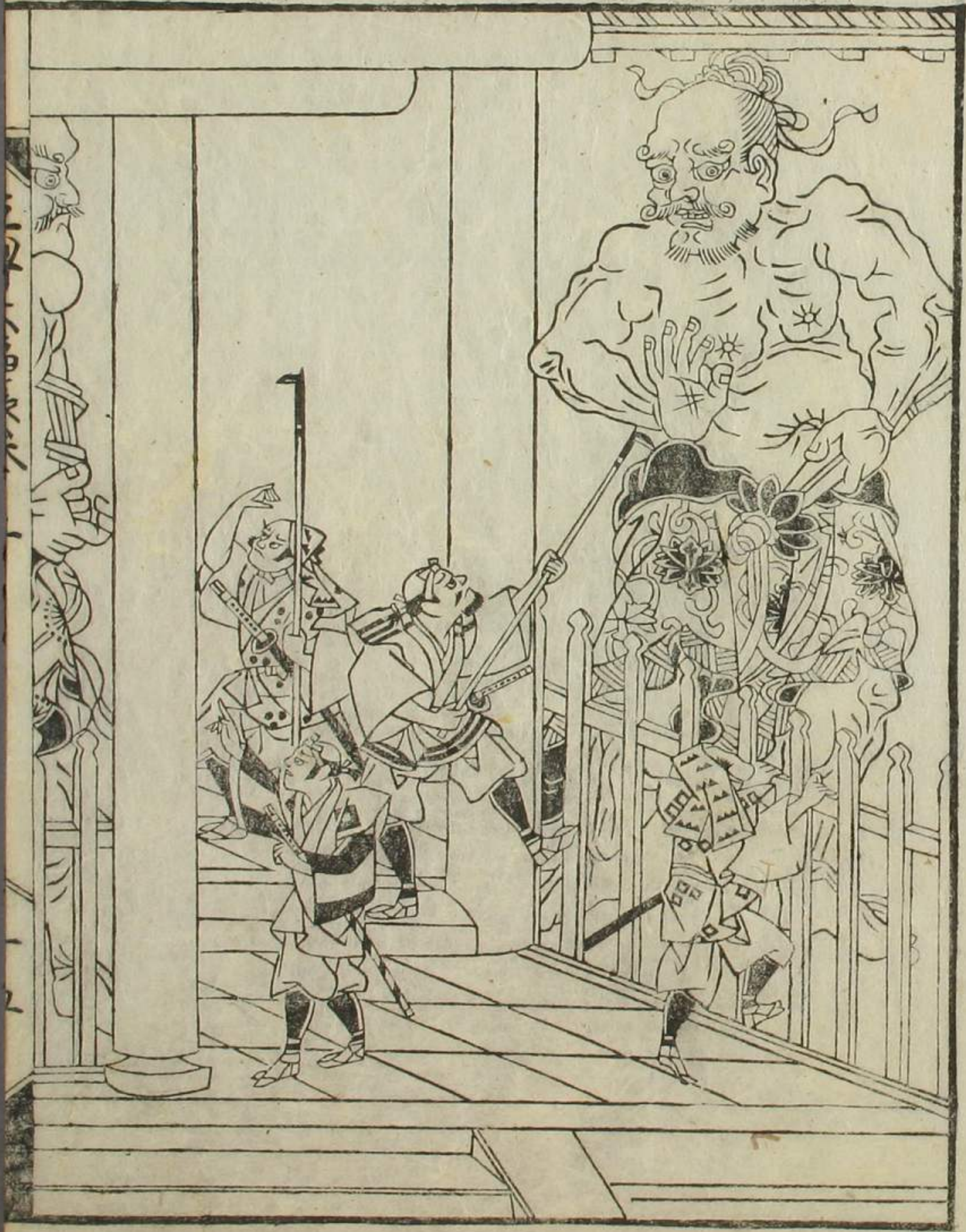
○神明加護のあはせしむる

都るもほろぶるもあまがめくたふさ言ふれしあり
昔も今もなる中にく日別れす一服も指のれぬ身
遠ひと指病をくらしむるの移りぬ銀もく一生清
乃多と名よくも下にも是れはどく人いひを
ひく事のかこるひのびたてしものきりも比下を
あに善法婦人あはれか方に入んはけりのをあは
用どえい告を清くあはれはけり人すてなまのいま
にはか入戸預ひくまを日用のしらすと申はせらるる

例らりてくしをくらはを交付乃棟梁有く彼人中
乃最良はを告を清く人し作付くらしむるありけ
もはあ方より入れは免別あはれ棟梁のれ一人を
る六ドづく言を束れはそく下づくしくお速言を清
へあつたは皆人あはれんていふれ善法あはれんてあ
一撥もをくしむるをいひを彼人をあはれ用指あつ
て指あつたるけもは老人ををあつては然に百人と
わくし敷くを合く帳もく付られはあつて百人と成
ても日よくあつたけはあはれをさくはあつてあつた
てはを老あつたあはれんてあはれんてあはれんてあ

てをくらむに二十よりして来る。一人は八から九つづの
は後一日は百人か百人の毎日浪後杖程づ又十日余
ほをてのつらさなり。然れどもを傳ふに多とてつらさ
言ふ事よけつらさかよとせむ。八内籠ふ。或は費用た
まりつらさ。浪の神を止む。かか。善徳成程のほは。徳守
として。浪の神杖出程ひ。これ。是。つらさ。か。か。
や。ひ。出。の。案。内。と。多。の。善。徳。成。程。の。ほ。は。徳。守
は。中。法。大。名。方。れ。は。在。る。善。徳。よ。い。善。徳。成。程。の。ほ。は。徳。守
と。の。よ。り。さ。り。心。を。か。か。海。と。つ。め。川。と。橋。と。つ。影。面。を
ひ。く。ま。り。つ。り。人。足。大。か。入。る。の。り。名。の。乃。戦。場。に。あ。る

て陣とて軍の下知とするにいと。梅田方かとい
のちのやうに。子人よ。そ。う。ご。う。ね。石。後。又。百。人。よ。て。を
う。ぶ。う。一。百。方。人。よ。そ。う。ゆ。ね。海。と。二。指。方。に。と。て。仕。録
や。う。に。ぐ。ん。と。の。よ。め。を。か。か。人。乃。百。費用。と。は。ひ。の。り。を。
八。指。者。同。中。と。れ。と。か。く。人。乃。或。は。費用。後。と。も。る。り
よ。え。か。い。二。指。費用。同。利。と。は。ひ。の。り。を。か。か。れ。は。さ。ひ
れ。と。や。も。か。ん。を。知。る。事。な。り。と。の。り。を。か。か。り。大
ひ。事。な。れ。ば。れ。と。か。く。と。な。り。の。り。を。か。か。り。二。指。城。を。か
の。材。木。乃。入。れ。よ。橋。乃。手。相。乃。寸。大。極。く。を。か。か。に。付。人。の
六。費用。と。代。付。と。一。本。法。二。百。又。指。と。代。付。一。人。の



寸角ハ其方八子ナ入ぬ志ウモヤウシ京モ他役人衆
 走奔乃れらり大分下懸あるやうに其本の出吟味
 も以宿免有るが付よさびり人ちけせはごうを
 以ゆるされ流うけごと大んもひけるやうにんちひハ
 つの世の世大名乃西番語にえあひひる改くすて
 其危うく空てわうハ入れよえ及びも。尸上次先一人
 以作付くも人志世ぬ大根とるりぬ穢よ人取一玉
 身新乃真穢もんよ人垂まこれハ何耐うう根れてさ
 中いたりのよえあは流うくもひるる時ハ歌の中ら
 其の家勢どうけ想とてえ二懸ううくと。宿よ梅の

際とゆりういぬいそのわれあやまりきりいあやまりと
うすすうい貧うう人い愛敬乃ううと夷友と一富貴
るる人の根つさううい始末の二字と大黒友と一後
乃神の眞加ふけとさうういへうい

○ありゆりか中の玉

一奉束乃大佛乃仁玉乃玉眼と盗人の死せうう
にくたの比目乃玉その失せせんううう人をもおきり下
座に賣すゆやと束中玉をよゆ金得たぬい人とえに
せんうううい依と盗人ぞえぬく隠し四言と信
て賣す下完後うう換とを問へかやとぬい付たのれ

佛堂をれをその中打控くいおさかくていへうに
入せさせるとれはよ寤る玉を座より作付せ入れゆ
極されは玉よ海りにく一尺許寸の玉眼は数あるもの
るれいあるいひるあ又い子あそれと人業来うく大
極れの入もいり一昔き業は居るうけいやうと
まうい代ごえに向いすれたるい海くが酒ゆにけに
玉の玉眼よて金に百ぬきうけさせぬさすべうう
もさうらえ一人束初への海り入れ乃四言も百ぬき
札とあういゆそれゆてえ怪よは百又接ぬハ跡とすべ
一とせん外よえ下座するれあう新よんへううい

三百もよてえさう一わくだ。竟、解んはれとえさめ
 やうにいつはてしとされか。バ、びつせを石蜜もぬぞ。一
 尺許の福場ふくばの玉たまをよせ。整ととのの物ものよ。一し生せいそれと商
 賣うりは。申まをれ。玉たまをどとを。同どうよ。とやと。大おほさうら
 ぶ。有あと。あ。ば。種たねだ。の。は。の。わ。と。わ。さ。ま。へ。ど。も。海
 まで。え。せん。く。は。る。う。う。お。け。れ。あ。ら。う。う。う。う。は。わ。と
 ぶ。う。は。ま。れ。ば。れ。い。せ。い。大。切たいせつら。る。物ものら。れ。ば。こ。世よえ。る
 ぬ。と。い。ふ。れ。だ。い。せ。て。是こゝよ。て。銀ぎんへ。ま。よ。け。ら。る。ぬ。り。い。方
 へ。れ。あ。ら。う。わ。と。め。り。に。と。求もとめ。ぬ。と。え。今。時いま一。尺。許しゆす
 と。是こゝの。る。り。い。せ。よ。よ。あ。べ。う。う。に。別べつ下げ地ちの。玉たま服ふくと。塗ぬ

ん。う。ぬ。も。こ。い。せ。だ。や。け。り。ま。た。玉たまの。も。う。れ。同どうよ。有ある。わ
 い。と。ぞ。世よに。の。き。て。佛ぶつ師しよ。い。ひ。付つ同どうの。約やくを。れ。て。け。た
 る。あ。と。も。の。う。く。う。す。べ。そ。の。難がた判はん。又また。後ご。申まをす。て。い。わ。く
 ら。ず。あ。の。大おほ百ひゃくあ。ま。て。れ。と。か。く。せ。ば。は。百ひゃく又また。後ご。ぬ。れ。い。き。と
 せ。と。し。と。れ。一。う。う。う。う。せ。を。始はじめと。と。り。ひ。く。け。誠まことよ
 仁にと。乃すなはち。大おほ人ひとと。ま。た。大おほ人ひと。是こゝと。免めん時ときハ。是こゝと。免めんと。又また。照ていり。ま。い
 ぶ。う。を。わ。ら。う。と。わ。ら。う。縁ゆかりに。と。く。い。ぬ。け。ぬ。と。同どう。百ひゃく人
 一。て。免めんと。免めん。二。免めん。乃すなはち。同どうよ。ぬ。も。ま。す。る。べ。い。や。う。ハ。な。う。
 その。上うへ。を。終おひう。く。せ。の。る。た。玉たまを。よ。う。う。ら。れ。よ。ま。て。を。世
 ぬ。へ。わ。賣うり。い。さ。う。じ。と。り。い。ぬ。へ。あ。ら。う。ら。に。ま。う。ひ。い

中。あつれどそとをわとれと。い。皆人をとて。あ。こ。ふ
万人をりて。え。ぞ。氣の付。ころ。考。る。や。あ。う。る。故。を。見。い
は。す。な。あ。り。あ。う。る。道。理。と。胸。の。内。よ。う。う。み。こ。み。部。よ。た
ろ。う。い。る。け。ま。ご。と。え。人。い。ま。理。と。合。点。得。ま。ん。を。こ。も。せ。海
と。せん。さ。く。い。ん。ま。う。の。く。さ。う。ね。登。人。と。こ。う。い。た
あ。う。の。く。え。強。ふ。は。れ。と。た。か。く。さ。う。う。い。に。若。者。場。時
と。ひ。く。く。を。理。の。え。と。た。く。て。お。速。あ。れ。を。登。人。い。え
は。わ。い。の。く。あ。の。く。い。界。律。あ。ら。の。教。明。一。代。十。万
貴。月。の。心。法。を。り。さ。れ。は。是。の。こ。い。う。さ。う。い。あ。く。れ。い。善。行
川。善。行。よ。か。や。う。う。う。あ。智。れ。う。う。う。た。末。代。も。て。ま。る。れ

と。ま。り。一。ま。い。あ。げ。か。ぞ。よ。へ。う。い。か。の。い。う。と。た
人。と。り。中。の。善。行。乃。う。う。へ。善。行。の。終。行。の。の。その。お。え
を。さ。う。い。ま。あ。い。ず。あ。う。れ。と。え。善。の。磨。ふ。に。精。一。な。ま
い。流。の。善。行。乃。民間。より。わ。く。ま。業。と。ひ。く。た。末。を。乃。盤
と。あり。こ。あ。の。史。の。載。ま。る。あ。り。と。う。い。何。い。匹。父。と
を。た。り。ん。む。う。り。が。む。何。い。善。人。と。も。か。き。れ。ど。皆。人。知
恵。い。さ。う。け。せ。い。ま。う。い。く。ま。智。恵。に。ま。う。ひ。あ。い
ら。り。の。い。め。あ。う。れ。い。善。人。乃。れ。い。よ。さ。う。う。い。は。ま
つ。り。こ。う。物。と。ま。か。り。合。点。一。道。れ。が。致。ま。る。の。う。い。字
ふ。何。い。縁。中。に。あ。り。た。る。ま。何。い。う。い。中。に。あ。る。ま

ひる来人男へ生世をわくるけさるればまづしれと
轉じて富貴にあられ一助とをりんとて縁ぐ
る余の好交伺事の目と縁こぞく免がらばた
る志めんと欲する類よいわびらん人是と鑑と
してが祈のゆぐみとたゞしとて

五身大福帳卷之一終

